



News Letter



令和7年度 内閣府 SIP / BRIDGE 関西・大阪万博関連イベント および Techno Ocean 2025 への出展

■ SIP/BRIDGE 関西・大阪万博関連イベント

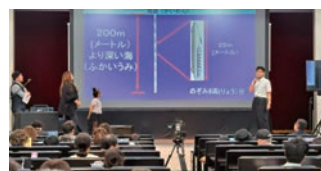
SIP第3期「海洋安全保障プラットフォームの構築」(以下、SIP海洋課題)は、大阪科学技術館／大阪科学技術センターにて開催された「SIP / BRIDGE 未来の科学フェス～未来をつくる“チカラ”に出会う日。～」に出展しました。同イベントは、内閣府が推進する研究開発プログラムである戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)及び研究開発とSociety5.0との橋渡しプログラム(BRIDGE)の最先端の取り組みを親子で楽しく学び・体験できる科学イベントとして、内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局により企画・開催されました。

イベントは、インフルエンサーステージと未来の科学フェス体験ブースからなる「1DAY イベント」(9/27)および「バーチャル SIP 未来体験ラボ」(9/23～9/27)の二部構成で、SIP海洋課題は、それぞれブース開設とパネル展示という形で参加しました。

「1DAY イベント」にはSIP/BRIDGEから5つの課題が出展しました。SIP海洋課題は「深海6000mの探検～海の謎を探るマシンの模型や動画で、海の底のふしぎな世界を楽しく学ぼう!」とのタイトルで、自律型無人探査機(AUV)「しんりゅう6000」の模型展示、海洋研究開発機構(JAMSTEC)が撮影した深海生物の動画およびそれらに因む塗り絵を用意しました。また、体験ブース開場前に行われたインフルエンサーステージでは、JAMSTEC海洋推進プロジェクトチームの矢野プロジェクト長がクイズコーナーに登場し、人気YouTuberと一緒に会場を盛り上げました。



【バーチャル部門でのパネル展示】



【インフルエンサーステージ】



【内閣府川上審議官ご来場(左端)】

ブースの開場時間は5時間弱でしたが、ブースには、100名を越える小学生やその家族が訪れ、「しんりゅう 6000」の迫力ある姿や不思議な形をした深海生物のビデオに見入っていました。

また、塗り絵も人気を博し、多くの来場者が一心不乱に取り組んでいました。

今回の展示を通じて将来を担う子どもさん達に深海への興味と関心を持ってもらうことができました。



■ テクノオーシャン2025

2025年11月27日(木)～29日(土)、神戸国際展示場にて Techno-Ocean 2025 が開催されました。同展は、1986年以来、隔年で開催されてきた海洋の科学技術に関する国際コンベンションで、今回は「海と生きる」をテーマに、展示会や基調講演に加えて、産学官関係者が集まるパネルセッションが開催されました。SIP 海洋課題は展示会にブースを出展するとともに、石井正一プログラムディレクター(PD)と「海洋ロボティクス調査技術開発」の藤原敏文テーマリーダー(TL)がパネルセッション「PS6 日本の資源・エネルギー開発に資する海洋ロボティクス」で講演、パネルディスカッションを実施しました。

ブースには、SIP 海洋課題の活動を紹介するパネルとともに、AUV「しんりゅう 6000」の模型や小型・軽量型海底観測プラットフォーム「江戸っ子1号 COEDO」の実機を展示しました。また、現在、研究開発が進められている小型で安価なAUV「えぼし」を初出展しました。会期中、会場には300名近くの方が来場され、取り分け、普及することが期待されるAUV「えぼし」には高い関心が寄せられました。



パネルセッションでは、冒頭来日されていた国際海底機構(ISA) カルヴァーリョ事務局長が基調講演を行うとともに、石井PDがSIP第3期での海底資源探査について、また藤原TLが環境モニタリング・資源探査に資するAUV開発について講演を行いました。会場には80名近くの方が参加しました。

その後、講演者を中心として、海洋ロボティクス開発に関する国内対応、人材育成に関する必要な方向性、取り組み等に関してパネルディスカッションが企画されました。洋上風力発電施設や海洋構造物の点検等、将来幅広い分野での活用が期待されるAUVを中心として、今後の必要方策等について活発な議論が展開されました。



カルヴァーリョ ISA 事務局長



SIP 海洋課題 石井 PD



SIP 海洋課題 藤原 TL



AUV「えぼし」

